

単元	IV これからの じぶんを 考えよう
目標	他者とのふれあいの中で自分を振り返ることを通して、自分の成長や他者と自分とのつながりを考えることができ、できることが増えた自分自身に気づき、成長することへの喜びや今後の成長を考えて意欲的に生活することができる。

小単元	IV-1 2年生になって ようこそ1年生		4月(5時間)【内容項目:(8)(9)】
目標	2年生で取り組みたいことを伝え合い、1年生と交流することを通して、できるようになりたいことと、1年生のためにできることを考えることができ、自分も友達も2年生の生活への期待や喜びをもっていることや、自分自身が成長していることに気づき、見通しをもって2年生の生活を送ろうとすることができる。		
評価規準	(①知・技)自分も友達も2年生の生活への期待や喜びをもっていることや、1年間の自分自身の成長に気付いている。 (②思・判・表)これまでの自分の経験や成長を基に、できるようになりたいことと、1年生のためにできることを考え、友達に伝えたり1年生と交流したりしている。 (③主体的態度)2年生の生活について意欲や自信を高めながら、進んで目標を立てたり、1年生と交流したりしようとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
であう	1	○2年生で取り組みたいことを伝え合う。	○自分も友達も2年生の生活への期待や喜びをもっていることに気付けるように、1年生の際の写真や行事カレンダーを基に、できるようになったことを少人数のグループで伝え合う機会を設定する。
	1	○入学した頃の気持ちや1年生でできるようになったことを伝え合い、学習のめあてをつかむ。 学習のめあて 1年生が学校を楽しめるように、自分ができることをしよう	○1年生のためにできることをしたいという思いをもてるように、入学した頃の写真と「楽しかったこと」「心配だったこと」の視点を提示する。
かかわる	常時	○休み時間に1年生と関わったり、1年生の先生にインタビューをしたりする。	○1年生の不安や楽しみな気持ちに気付けるように、「1年生の気持ち」の視点を提示する。
	1	○1年生のためにできることについて計画を立てる。	○これまでの自分の経験や成長を基に、1年生のためにできることを考えられるように、1年生の写真や、1年生の先生にインタビューした内容をまとめた模造紙を提示する。
	1	○計画を基に、1年生のためにできることをする。	○1年生の視点に立って交流できるように、「1年生の気持ち」を視点を提示し、交流する時間を十分に確保する。
常時	○1年生にアサガオの種を渡したり、朝の時間や休み時間に1年生と継続的に関わったりする。		○1年生の表情や行動を基に、笑顔で遊んだり、学校生活の中で必要なことを伝えたりしている。 <行動②>
・まいとかめする	1	○1年生との交流を成功することができた理由について伝え合い、2年生の生活でできるようになりたいことを書く。	○1年間の自分自身の成長に気付けるように、1年生との交流の写真と「できるようになったこと」の視点を提示する。

【備考】
 ・スタートカリキュラムの視点から、1年生との交流は4月の中旬頃までにできるとよい。
 ・1年生のためにできることは、「仲よくなるための遊び」「学校生活の中で必要なこと」など、子どもたちの思いや願いを尊重する。
 ・「仲よくなるための遊び」については、1年生が校庭遊びが始まっていないため、室内でできるものがよい。(手遊び、折り紙等)
 ・「学校生活の中で必要なこと」については、朝の準備、学校の施設紹介、先生紹介、学習の準備等
 ☆教科書3～11ページ

大単元	Ⅲ だいに そだてよう
目標	動物や植物等の生き物と関わる活動を通して、それらの育つ場所や成長の様子に関心をもって飼育や栽培を工夫することができ、生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、生き物への親しみをもって大切にしようとする事ができる。

小単元	Ⅲ-1 おいしくなあれ みんなのやさい	4・5月(11時間)【内容項目:(5)(7)】
目標	野菜の種をまき、世話をすることを通して、野菜の育つ場所や成長の様子に関心をもって種のまき方や世話の仕方を考えながら工夫し、野菜が成長していることに気づき、野菜への親しみをもって大切にしようとする事ができる。	

評価規準	(①知・技) 野菜の育つ場所や気持ち、様子、世話の大切さに気付いている。 (②思・判・表) 野菜の種のまき方や世話の仕方、野菜の気持ちやこれまでの経験、様子の変化を基に考え、世話をしたり、絵や動作で表したりしている。 (③主体的態度) 野菜に関心を持ち、進んで種をまいたり、世話をしたりしようとしている。	
------	--	--

過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
であう	1	○野菜カレンダーを基に、ポトフ作りや野菜を育てることへの思いを発表し合い、学習のめあてをつかむ。 学習のめあて みんなが喜ぶポトフを作れるように、おいしい野菜を育てよう	○美味しい野菜を作ってみようと食べたいという思いをもてるように、お餅を食べている様子や野菜やポトフの写真を提示する。	◇野菜を育てることへの思いを絵や言葉で表している。 <学習プリント・発表③>
かかわる	2	○育ててみたい野菜を決めてグループを作り、野菜の種をまく時期、まき方、大まかな世話の仕方、必要な道具等を調べて計画を立てる。	○計画を立てる際には、野菜を育てる見通しをもてるように、野菜の絵本等の資料を用意したり、専門家から話を聞く機会を設定したりする。	◇野菜をおいしく育てていこうとする気持ちに基に、種まきに必要な手順を絵や文で表している。 <学習プリント②>
	2 国語I	○土づくりをして、野菜の種をまき、種まきをした様子や気持ちを書く。 ・肥料をまき、うねを作る。 ・自分がまく場所に種をまき、土をかける。 ・水やりをする。	○大きい野菜になって欲しいなど、野菜の成長への願いを基に、種まきできるように、種の気持ちを視点に種まきをする時間を十分に確保する。	◇野菜を大切にしたいという思いやおいしく育ててほしいという願いを基に、土を柔らかくしたり細かい土をかけたりして、種をまいている。 <行動②>
	1 国語I +常時	○野菜の成長の様子の観察と世話をし、心配なことやおいしい野菜を育てるために知りたいことを友達と伝え合う。	○野菜の世話の仕方を考えられるように、「変わったこと」「気になること」を視点に、繰り返し野菜を観察する機会を設定する。	◇野菜を成長の様子と野菜の気持ちを基に世話に向けた調べたいことを発言したり、記述したりしている。 <発言・行動②>
	3 +常時	○野菜の世話の仕方を調べ、世話をする。 ・草むしり、芽欠き、追肥、土よせ、支柱等	○野菜の世話の仕方に気付けるように、前時の知りたいことや心配なことをまとめた模造紙を基に、野菜の資料を用意したり、専門家から話を聞く機会を設定したりする。	◇野菜を成長の様子と野菜の気持ちを基に世話に向けた調べたいことを発言したり、記述したりしている。 <発言・行動②>
	1 +常時	○野菜の成長の様子を観察し、困っていることを伝え合い、世話の仕方の工夫を話し合ったり、調べたりする。	○野菜の成長に合わせた世話の仕方に気付けるように、困っていることを分類し、他の野菜を育てている友達と相談する機会を設ける。	◇野菜を成長の様子と野菜に合わせた世話について、発言したり、記述したりしている。 <発言・行動①>
・まいとめする	1	○野菜の成長の様子や自分の気持ちを伝え合い、野菜が成長してきた理由を話し合う。	○野菜の成長の様子の変化に気付けるように、成長ごとの変化が分かる写真を提示する。	◇野菜の成長の喜びや野菜の世話、成長の様子を相手に伝えるように絵や文で表している。 <学習プリント①②③>

【備考】
 ・グループで育てる野菜は、収穫時期等から、キュウリ、ミニトマト、トウモロコシ、ズッキーニ、ナス、ピーマン、オクラ、エダマメの中から選択させるとよい。
 (トウモロコシは7月の給食に向けて皮むきをするので、各クラス1グループは選択できるとよい。R05は、7月19日1校時にトウモロコシの皮むきを実施。
 ・7月の野菜集会への見通しをもてるように、資料や前年度のVTRを利用する。
 ・「まとめる・いかす」過程で野菜を育てた経験を振り返る活動があるので、まとめやすいように成長の節目ごとにカード等に記録を残していく。
 ・野菜の種まきは学年合同で行う。令和3年度は、4月20日に実施した。(7月の野菜集会に間に合うように、4月の中旬までに行う。) 苗なら5月上旬。
 ・苗はポットに蒔いて育てるとよい。
 ・国語「大きくなったらよ!ぼくのやさい」と合科的に扱い、野菜の成長に合わせて、国語B(1)アイの指導をする。
 ・教員による土づくりは、春休み中に行っておく。(ウリ科の植物は連作障害を避けるため、畑の場所をローテーションする)
 ・専門家にゲストティーチャーとして依頼できるとよい。
 ☆教科書12~27ページ

大単元	I 町のたんけんに出かけよう
目標	身の回りの公共施設や公共機関，身近な人々に関わることを通して，それらと自分との関わりについて考えたり，それらのよさや働きを捉えたりすることができ，自分たちの生活は様々な施設や機関，人々と関わっていることに気づき，それらに親しみを持ち，正しく利用したり進んで関わったりしようとするができる。

小単元	I-1 町たんけんに出かけよう			4・5月(13時間)【内容項目：(1)(3)】
目標	町探検をすることを通して，地域の公共施設や公共機関や人々と自分との関わりや，それらとの関わり方について考え，地域の様々な場所や人々の様子，自分との関わりに気づき，地域に親しみを持ち，適切に利用したり接したりしようとするができる。			
評価規準	(①知・技)地域の様々な場所や人々の様子，自分との関わりに気付いている。 (②思・判・表)地域の様々な場所や人々との関わり方を考え，探検して気付いたことを自分なりに表している。 (③主体的態度)地域の様々な場所や人々に関心を持ち，自分なりに楽しく関わろうとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
であう	2	○学校周辺に出かけ，気付いたことを発表し合い，学習のめあてをつかむ。 — 学習のめあて 町の中のいろいろな場所や人々のすてきを見付けながら探検しよう	○学校周辺の地域を探検することへの思いや願いをもてるように，地域のいくつかの施設等が入った絵地図を提示する。	◇施設やお店，そこにいる人々等に関心を持ち，町探検への思いを発言したり，絵や文で表したりしている。 <発言・学習プリント③>
かかわる	1 3 1 1 2 国語I	○町の地図を基に，探検をしたい施設を決め，計画を立てる。 ○1回目の町探検をして，町探検で気付いたことを「探検カード」に書く。 ○1回目の町探検で気付いたことや疑問に思ったことを伝え合う。 ○2回目の町探検の計画を立てる。 ○2回目の町探検をして，町探検で気付いたことを「探検カード」に書く。	○探検の見通しをもてるように，「施設にある物」「施設にいる人」を視点として提示する。 ○地域の様々な場所や人々の様子に気付けるように，諸感覚の視点で整理できる探検カードを用意する。 ○疑問に思ったことの共通点に気付けるように，町探検の施設が同様な子ども同士のグループを編制する。 ○2回目の探検の見通しをもてるように，1回目の探検よりもっと詳しく知りたいこと等の視点を提示する。 ○もっと詳しく知りたいことを焦点化して調べられるように，自らが知りたいことをグループの友達と確かめる場を設定する。	◇探検をしたい施設やインタビューしたい人々について，その理由を友達に分かりやすく伝えている。<行動②> ◇学校周辺には，様々な施設があり，そこで働く人々がたくさんいることを絵や文で表している。 <学習プリント①> ◇探検した施設や人々の様子を友達に分かりやすく絵や文で表している。 <学習プリント②> ◇1回目で探検したことを基に，探検したい施設で働く人々へインタビューすることを書いている。 <学習プリント②> ◇学校周辺の様々な施設やそこで働く人々との自分の関わりについて，絵や文で表している。<学習プリント①>
まといめかるす	2 1 国語I	○お世話になった方々にお礼の手紙を書き，渡しに行く。 ○探検して気付いたことや，楽しかった町の様子，これからの自分と地域との関わりについて，発表し合う。	○地域の人々と関わりを実感できるように，町探検をしている写真を提示する。 ○地域の施設やそこで働く人々ののよさを実感できるように，これまで探検したことを振り返ることができる場を設ける。	◇探検したことを基に，公園や児童館，商店等，地域の施設やお店，人々と関わった喜び等を絵や文で表している。 <手紙①> ◇地域やそこで働く人々と自分自身が関わっていくことのよさを記述している。 <学習プリント①②③>

【備考】
 ・施設へ事前のあいさつを春休みにしておく。
 ・グループは，6グループ構成とし，自分が行きたい施設が同じ子ども同士で組めるとよい。1回の探検で回る施設は2か所。
 ・絵地図は教室に掲示し常時発見したことを記入できるようにしておく。
 ・本単元を通して見付けたことやものを，2年国語「町たんけんで見つけたすごいもの」で題材として扱っていく。
 ☆教科書28～43ページ

小単	Ⅲ-2 やさいしゅうかいを しよう		6・7月(9時間)【内容項目:(3)(5)(7)】
目標	野菜集会の計画を立て、準備・運営することを通して、野菜を食べる楽しみ方を工夫し、ポトフ作りの楽しさや野菜の収穫の喜びに気づき、野菜集會を行おうとすることができる。		
評価規準	(①知・技)ポトフ作りの楽しさや野菜の収穫の喜びに気付いている。 (②思・判・表)野菜の世話を振り返ったり野菜集會の楽しみ方を考えたりして、野菜やポトフ作りの楽しさや喜びを絵や文で表現している。 (③主体的態度)野菜の収穫の喜びを味わい、進んで野菜集會をしようとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
であう	1	○「やさいしゅう会」について話し合い、学習のめあてをつかむ。 学習のめあて—— 野菜の収穫を祝って、楽しい「やさいしゅう会」をしよう	○「やさいしゅうかい会」への思いや願いがもてるように、実った野菜や1年生の時に餅を食べた時の写真を提示する。
かかわる	1 国語	○「やさいしゅう会」の計画を立て、招待状を作る。 ・計画：栄養士に相談、買い物、道具の準備、係決め ・係：切る、煮込む、よそる等	○「やさいしゅう会」に必要なものや係について考えられるように、栄養士に相談・質問できる機会を設ける。
	2	○調味料や道具を購入したり、準備したりする。	○必要なものを購入できるように、買い物の模擬体験を基に、スーパーで購入する機会を設定する。
	担任	○1年生や保護者に招待状を渡す。	
	4	○「やさいしゅう会」をする。	○収穫の喜びを味わえるように、友達や保護者と感想を伝え合う機会を設定する。
・まいとかめする	1	○これまでの野菜の世話や野菜集會を振り返って、野菜作りのよさ等の感想を話し合う。	○野菜や野菜作りの成果を実感できるように、これまでの活動の写真を提示する。
【備考】 ・「であう」過程で、育てた野菜について、実際に色つやを見たり野菜の重さを手で感じたりする活動を取り入れるとよい。 ・野菜集會は、学年通信等で連絡し保護者の協力を依頼する。 ・野菜の生育状態に差があるため、早めにできた野菜は収穫せずにとっておく。 ・天候等により、野菜集會に収穫が間に合わない野菜がある可能性があるため、全員がミニトマトを育てる。 ・「野菜集會」では、1年生に野菜ポトフをプレゼントをしたり、保護者の方を招き、収穫をお祝いしたりする。 ・前日の調理の仕込みは、衛生上しない。 ・生肉の調理も行えないため、入れるなら加工したものを使う。 ・アレルギーの調査を学年通信で、事前に行っておく。(1年生, 2年生両方) ☆教科書12～27ページ			

小単	Ⅲ-3 いきもの なかよしだいさくせん		8・9月(11時間)【内容項目:(6)(7)】
目標	生き物の世話をすることを通して、仲よくなる方法や世話の仕方考えることができ、生き物の様子やそれらが生命をもっていること、触れ合う楽しさに気付くとともに、生き物に親しみをもって大切に触れ合おうとすることができる。		
評価規準	(①知・技) 生き物の様子や触れ合う楽しさに気付いている。 (②思・判・表) 生き物と仲よくなる方法や世話の仕方考え、触れ合ったことや気付いたことを表現している。 (③主体的態度) 生き物に関心を持ち、繰り返し関わろうとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
であう	1	○学校のウサギと触れ合ったり、世話をしたことがある生き物について伝え合ったりして、学習のめあてをつかむ。 学習のめあて 生き物となかよしになろう	○ウサギと仲よくなりたいという思いをもてるように、ウサギをなでたり、抱っこしたりして1人1回以上触れ合える場を設定する。
	1	○ウサギへの接し方を知り、餌やりをしたりウサギに触れてだっこしたりする。	○ウサギの抱き方や餌のあげ方を知ることができるように、飼育委員会の子どもや獣医等の専門家の話を補説したり、飼い方の資料を提示したりする。
かかわる	1	○ウサギと仲よくなる方法について話し合い、仲良しになる計画を立てる。	○ウサギと仲よくなる方法を考えられるように、前時に上手くいった方法を友達に伝え、上手くいかなかったことを相談する時間を設定する。
	2	○飼育小屋の掃除をしたり餌やりをしたりして、ウサギと触れ合う。	○ウサギの気持ちを考えながら親しみをもって関わられるように、ウサギが言っている言葉を友達と伝え合いながら触れ合う時間を十分確保する。
ま・といめかるす	1	○ウサギと触れ合ってよかったことを話し合い、校庭にいいような世話をしたい生き物を伝え合う。	○ウサギと触れ合ってきたよさを実感できるように、ウサギを抱いたり、餌やりをしたりしている写真を提示する。
	2	○校庭で生き物を探したり、生き物の世話の仕方を調べたりする。	○生き物の世話の仕方をすることができるように、教科書や図書資料を用意する。
	1	○生き物の世話をします。	○生き物の気持ちを考えながら親しみをもって関わられるように、生き物の言っている言葉を友達と伝え合いながら触れ合う時間を十分に確保する。
	1	○ウサギや生き物と触れ合って気付いたことやよかったことを話し合う。	○生き物と触れ合ってきたよさと自分ががんばったことを実感できるように、生き物の世話をしたり、餌やりをしたりしている写真を提示する。
常時	○当番を決め、飼育委員の子どもに教えてもらいながら世話をします。		
【備考】 ・事前に飼育委員会をお願いをして、日常的に世話の様子を観察したり、手伝いしたりできるようにする。 ・ウサギと触れ合う時には、小屋から柵に出すとよい。なお、飼育小屋で活動するときには、5人程度がよい。 ・学年通信で動物アレルギーの児童を確認し、配慮する。 ・獣医やペットショップの方の話が聞けるとよい。ふれあい教室では、獣医の方が数名来校して適切な触れ合い方を指導していただける。(「動物ふれあい教室事業」群馬県獣医師会) ・タオルでくるむことで、ウサギは大人しくなる。また、生き物が苦手な子どもも生き物と自分との間に物が入ることで、不安軽減にもなる。 ☆教科書44～59ページ			

小単	I-2 電車にのって 出かけよう		9・10月(10時間)【内容項目:(3)(4)】
目標	公共物や公共施設を利用する活動を通して、公共物や公共施設と自分との関わりや、正しく安全な利用の仕方を考え、身の回りにはみんなで使う物があることや利用する人々を支えてくれる人々の様子に気づき、公共物や公共施設を大切に正しく安全に利用をしようとする事ができる。		
評価規準	(①知・技) 電車の利用の仕方、そこで働く人々の様子に気付いている。 (②思・判・表) 電車の利用の仕方や駅や電車内でのマナーについて考え、電車を利用したり、活動の様子を絵や文で表現したりしている。 (③主体的態度) 駅や電車、そこで働いている人々と関わり、正しく安全に利用しようとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
であう	2	○駅や電車の中の様子について知っていることを発表したり調べたりして、学習のめあてをつかむ。 — 学習のめあて — 電車を正しく利用して、みんなで電車に乗ろう	○電車に乗りたいという思いや願いをもてるように、電車や大胡駅の写真を見た感想や電車に乗った際の気持ちを整理して板書する。
	2	○電車に乗る模擬体験をし、電車の利用の仕方や駅や電車内でのマナーについて考え、計画を立てる。	○電車の時刻や料金、電車の乗り方や座り方、降り方等と駅での正しい過ごし方に気付けるように、電車の内部や駅の写真、電車に乗る模擬体験を設定する。
かかわる	4	○グループごとに電車に乗って大胡駅まで行き、駅員さんから話を聞いたり、観察・体験をしたりする。	○電車を正しく安全に利用できるように、駅や電車内でのグループの約束をまとめられる計画書を用意する。
	1	○駅や電車で働く人々の様子や楽しく活動してきたこと等の気付いたことを話し合い、お礼の手紙を書く。	○正しく安全に電車を利用したよさや駅や電車で働く人々の様子に気付けるように、電車を利用することができた理由を記述する学習プリントを用意する。
・まいとかめする			◇電車に乗りたいという思いや願いを伝えたり、記述したりしている。 <発言・学習プリント③> ◇電車の時刻や料金、電車の乗り方や座り方、降り方等と駅での正しい過ごし方について自分の考えを伝えたり、記述したりしている。 <発言・学習プリント②> ◇電車を正しく安全に利用している。 <行動①> ◇正しく安全に電車を利用したことや駅や電車で働く人々の様子を絵や文で表している。 <学習プリント①②③>
【備考】 ・電車の模擬体験セット(お金の模型や券売機のイラスト)が保管してある。 ・事前に、電車の乗車グループや利用する電車の乗車人数を把握し、調整する。 ・事前に電気鉄道に連絡を取り、時間を調整したり、安全面の配慮していただいたりする。 ・利用する時間帯については、ラッシュ時を避けるように計画する。また、挨拶やお礼等、人との関わりを重視するようにする。 ・グループは、5～6人で編制する。 ・国語科の学習と関連させて、お礼の手紙を書く活動を取り入れるとよい。 ☆教科書76～97ページ			

大単元	Ⅱ みんなであそぼう
目標	身近な物や身の回りの自然の利用して遊ぶことを通して、それらの利用の仕方を工夫し、それらの面白さや不思議さ、季節によって生活の様子が変わること気付くとともに、みんなと楽しく遊ぼうとすることができる。

小単元	Ⅱ-1 みぢかなものであそぼう(ペットボトルキャップ)		9・10月(8時間)【内容項目:(6)】
目標	ペットボトルキャップ遊びの遊び方(以下:遊び方)を友達と試しながら遊ぶことを通して、遊び方を工夫し、友達と遊び方の工夫をする面白さ、遊び方の工夫をするとみんなと遊びをより楽しめることに気付くとともに、みんなと楽しく遊ぼうとすることができる。		
評価規準	(①知・技) 友達と遊び方の工夫をするおもしろさ、遊び方の工夫をするとみんなと遊びをより楽しめること、相手意識をもって楽しく遊ぶことができた自分自身に気付いている。 (②思・判・表) 自分と友達の遊び方を比べ、相手意識をもって遊び方を試しながら工夫をしたり、遊んだりしている。 (③主体的態度) みんなと楽しく遊ぶことを目指して、自分も1年生も楽しめる遊び方を考えて、みんなと楽しく遊ぼうとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
であう	1	○ペットボトルキャップを利用してできそうな遊びを話し合っ て話し、学習のめあてをつかむ。 学習のめあて 自分も1年生も楽しめるペットボトルキャップを使った遊び方を考えて、みんなと楽しく遊ぼう	○1年生と楽しめる遊び方を考えて楽しく遊びたいという思いや願いがもてるように、ペットボトルキャップ遊びを試す時間を設定する。
	かかわる	2 ○友達と遊び方を相談しながら、遊び方を試す。 常時 ○自分たちの遊び方で1年生と一緒に遊ぶ。 1 ○自分たちの遊び方で遊んだことについて振り返る。 2 ○友達と遊び方を相談しながら、新たな遊び方を試す。	○友達と遊び方の工夫をする面白さに気付けるように、選んだ遊びが似ている子ども同士のグループを編成し、遊び方を試す場を設定する。 ○新たな遊び方を見いだせるように、自分が見付けた遊び方を友達と伝え合う時間を設定する。 ○新たな遊び方を試せるように、自分や同じグループの友達が見いだした新たな遊び方を遊ぶ場所に掲示する。
まといめかるす	1	○自分たちの新たな遊び方で1年生と一緒に遊ぶ。	○遊び方の工夫をするとみんなと遊びをより楽しめることに気付けるように、1年生と遊んだ感想を伝え合う時間を設定する。
	1	○みんなと楽しく遊ぶことができた遊び方について振り返り、これからの生活の中で、してみたいことを話し合う。	○1年生と楽しく遊ぶことができた自分自身に気付けるように、「みんなと楽しく遊ぶためにがんばったこと」や「遊んでうれしかったこと」を視点として提示する。

【備考】

- ・遊ぶスペースを生活科室や南校舎を借りられるとよい。
- ・遊び方の相談と1年生との交流を考慮して、R01年度は2～3人の12グループ編制で行った。
- ・令和4年度は、実習単元として扱った。
- ・本単元の学習内容は、2年2学期国語「せつ明書を作ろう」における「ペットボトルキャップの遊び方」の説明書づくりの対象となる。

☆教科書60～75ページ

小単	Ⅱ-2 うごくおもちゃであそぼう		10・11月(12時間)【内容項目:(6)】
目標	身近な物を利用した動力で動くおもちゃを作り、それを用いて友達と遊ぶことを通して、動くおもちゃの作り方や遊び方を工夫し、動くおもちゃを生み出す面白さ、動力の不思議さ、友達と遊ぶ楽しさに気づき、友達と楽しく遊ぼうとすることができる。		
評価規準	(①知・技) 動くおもちゃを生み出す面白さ、さまざまな動力で物が動く自然現象の不思議さ、友達と遊ぶ楽しさ、友達と楽しく遊ぶことができた自分に気付いている。 (②思・判・表) 動くおもちゃの作り方を考え、見直したり工夫したりして、動くおもちゃや遊び方の工夫をすなおに表したり、楽しく遊んだりしている。 (③主体的態度) 動くおもちゃを作り、それを用いて遊ぶことに関心をもち、友達と楽しく遊ぼうとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
であう	1	○見本の動くおもちゃで遊び、遊んだ感想を伝え合い、学習のめあてをつかむ。 — 学習のめあて — 動くおもちゃを作り、みんなで楽しく遊ぼう	○動くおもちゃを作って遊びたいという思いや願いをもてるように、走行する、飛ぶ等の動きをする見本の動くおもちゃを用意する。
かかわる	1	○自らが作る動くおもちゃを決め、必要な材料や目指すおもちゃのイメージを計画カードに書く。	○動力や必要な材料を生かした動くおもちゃのイメージをもてるように、「目指す動き」「動く仕組み」の視点を提示し、身近にある材料を例示する。
	2	○動きを試しながら動くおもちゃを作り、互いの動くおもちゃの動きのよさを伝え合う。	○動力を生かして動くおもちゃが作れるように、動きを試す場を設定する。
	2	○自分の動くおもちゃの改善策を見付け、作り変える。	○自分の動くおもちゃの動きの改善策を考えられるように、自分の動くおもちゃの動きの改善策について友達に相談する機会を設定する。
	2	○完成した動くおもちゃで遊び、これからの活動について話し合う。	○動くおもちゃを生み出す面白さと物を動かす動きの不思議さに気付けるように、動くおもちゃの「よい動き」「よい動きの工夫」の視点を提示する。
	2 + 常時	○同じ種類の動くおもちゃを作った子ども同士でグループで遊び方を考え、試しながら「わくわく動くおもちゃランド」の準備する。	○自分も友達も楽しめる動くおもちゃを用いた遊び方を考えられるように、「みんなが笑顔になれる」「おもちゃの動き」の視点を提示する。
・ま いと かめ する	1	○「わくわく動くおもちゃランド」で1年生と一緒に遊ぶ。	○動くおもちゃやそれを用いた遊び方のよさを1年生に伝えられるように、動くおもちゃのよい動きや遊びのルールと注意点を説明する機会を設定する。
・ま いと かめ する	1	○これまでの自分の取組の感想を伝え合い、自分のおもちゃや遊び方のよさを話し合う。	○自分の成長やがんばりに気付けるように、これまでの自分の取組と1年生と楽しく遊べた理由を記述する学習プリントを用意する。
【備考】 ・見本の動くおもちゃは、2年ロッカーに保管してある。 ・遊ぶスペースは生活科室を使用するとよい。 ・おもちゃの置き場所として大会議室後ろを借りられるとよい。 ・動きを生み出す動力については、以下が考えられる。 ①磁力 ②ゴムの弾性力 ③風力(空気砲のような物や、うちわ等) ④重力(坂道を利用した物) ☆教科書60～75ページ			

小単	Ⅱ-3 冬のぎょうじをしよう		12~2月(12時間)【内容項目:(5)(6)】
目標	正月の行事やまめまきをすることを通して、その年中行事の行いや、友達との楽しみ方を考え、年中行事の意味や楽しさに気づき、楽しく年中行事をしようとするができる。		
評価規準	(①知・技) 正月やまめまき等の年中行事の意味や楽しさに気付いている。 (②思・判・表) 調べたことを基に友達との正月の行事やまめまきの楽しみ方を考え、活動の様子や楽しさを絵や文で表現している。 (③主体的態度) 年中行事を進んで調べたり、楽しく正月の行事やまめまきをしたりしようとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
であう	1	○正月やまめまき等の行事について話し合い、学習のめあてをつかむ。 学習のめあて 季節の行事を知って、紹介したり、友だちと楽しんだりしよう	○正月の行事やまめまきのイメージをもてるように、様子の写真や映像を用意する。
かかわる	家庭	○年中行事について実際に取り組んだり、保護者に聞いた り、本で調べたりする。(冬休み中)	○家庭で取り組んだことを授業で友だちと共有できるように、ロイロノートに提出フォルダを作成する。
	1	○正月やまめまき等の行事について調べる。	○正月やまめまき等の行事に関わる人の思いや願いに気付けるよう、「行事を行うよさ」の視点を提示する。
	2	○年中行事について実際に取り組んだり、保護者に聞いた り、本で調べたりしたことを発表する。	○正月やまめまき等の行事の特徴・よさにさらに気付けるように、撮影してきた画像をロイロノートで共有する。
	2	○まめまきについて話し合い、計画を立てる。	○まめまきを学校で行う楽しみ方を考えられるように、「みんなでできる」の視点を提示する。
	1	○試しのまめまきをする。	○まめまきを学校で行う楽しみ方を工夫できるように、豆の代わりに発泡スチロールチップを用意する。
	2	○まめまきの行い方を見直し、準備をする。	○安全に準備を行えるように、「豆をまく場所」「豆をまくときのきまり」をまとめた模造紙を提示する。
	2	○クラスの友だちとまめまきをする。	○安全に楽しくまめまきを行えるように、一緒に行うグループの友達とまめまきをまく範囲を事前に確認する時間を設定する。
・まいとかめする	1	○まめまきをして、気付いたことや楽しかったことを話し合う。	○まめまきを行ったよさを実感できるように、まめまきをしている画像や動画を提示する。
			◇正月の行事やまめまきを楽しみにしている思いを伝えて いる。 ＜発言③＞
			◇正月やまめまき等の行事のよいところを発言したり記述 したりしている。 ＜発言・学習プリント①＞
			◇友達の発表に対して、気付いたことや分かったことを伝 えている。 ＜発言①＞
			◇調べたことを基に、友達とのまめまきの楽しみ方を伝え たり記述したりしている。 ＜発言・学習プリント②＞
			◇豆を投げる方向や声の出し方について、発言したり記述 したりしている。 ＜発言・学習プリント②＞
			◇計画を基に、まく場所やきまりを確認して準備をしてい る。 ＜行動③＞
			◇友達と笑顔でまめまきを楽しんでいる。 ＜行動③＞
			◇まめまき等の地域行事の意味や友達と行う楽しさ、自分 たちで計画したことを実行できたよさを絵や文で表して る。 ＜学習プリント①②③＞
【備考】 ・「であう」過程の1時間は12月中に実施し、冬休みを利用して年中行事について取り組んだり、調べたりできるようにする。 ・まめまきでまいた豆は回収し、2年畑の肥料として活用する。 ・豆は135グラム程度のものをクラスに9つ購入、升は紙で作成した。 ☆教科書98~99ページ			

単元	IV-2 大きくなった今の自分・これからの自分		2・3月(14時間)【内容項目:(2)(9)】	
目標	成長アルバムを作ることを通して、自分の成長やそれを支えてくれた人々の思いについて考え、自分自身の成長やそれを支えてくれた人々に気付くとともに、成長の喜びや支えてくれた人々への感謝の気持ち、これからの成長への願いを表す。			
評価規準	(①知・技) 自分の努力や支えてくれた人々によって自分が成長してきたこと、支えてくれた人々の自分に対する思いに気付いている。 (②思・判・表) 自分の成長やそれを支えてくれた人々の思いについて考え、自分の成長や、支えてくれる人々への感謝の気持ち、自分のこれからの成長への願いを表している。 (③主体的態度) 自分のよさを見付け、これからの成長への願いをもって生活しようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	
であう	1	<ul style="list-style-type: none"> ○友達と得意なことやすごいところを見付け合い、自分の成長を振り返り、学習のめあてをつかむ。 学習のめあて 自分の成長について探し、成長アルバムを作ろう 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の成長の様子を表したいという思いをもち、自分の成長を自覚できるように、友達と互いのよいところを記述する付箋紙を用意する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇自分の成長の様子を表したいという思いを発言したり記述したりしている。 <発言・ロイロノート③>
かかわる	2	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の成長について調べる方法やまとめ方を話し合い、調べることや準備する物の計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の成長について調べる見通しをもてるように、見本となる成長アルバムや年齢ごとに項目のある学習プリントをロイロノート上に用意する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇「身体」「できるようになったこと」の視点から、成長を支えてくれた人々にインタビューしたいことを発言したり記述したりしている。 <発言・ロイロノート②>
	家庭	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の過去の様子について成長を支えてくれた人々にインタビューし、インタビューカードにメモするとともに、思い出の品や写真を準備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○インタビューしたことを年齢順に整理できるように、年齢ごとに区切られたインタビューカードを用意する。 	
	1	<ul style="list-style-type: none"> ○1回目にインタビューしたことを、友達と伝え合い、2回目のインタビューしたいことを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○2回目にインタビューしたいことを見付けられるように、インタビューして心に残ったことをペアの友達に伝え、自分がインタビューしてこなかったことを聞く機会を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇2回目にインタビューしたいこととして、小さい頃の様子やその時の支えてくれた人々の気持ちに関するエピソードを発言したり、記述したりしている。 <発言・ロイロノート②>
	家庭	<ul style="list-style-type: none"> ○小さい頃の様子やその時の支えてくれた人々の思いについて詳しくインタビューし、インタビューカードにメモする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○インタビューしたいことを調べられるようになるまでの様子とその時の支えてくれた家族の気持ちや記述できるインタビューカードを用意する。 	
	5+家庭	<ul style="list-style-type: none"> ○自分がインタビューしたことを成長アルバムとして自分なりにまとめたり、再度インタビューしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○インタビューしたことの中から、成長アルバムに書く内容を選ぶように、「心に残ったこと」の視点を提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇小さい頃の様子や成長を支えてくれた人々の気持ちを成長アルバムに表している。 <ロイロノート②>
1	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の成長をまとめ、成長アルバムに書き加える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の成長に気付けるように、これまで作った成長アルバムを見返し、過去の自分と現在の自分との違いを見付ける機会を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇自分の成長について成長アルバムに表している。 <ロイロノート①> 	
1	<ul style="list-style-type: none"> ○成長アルバムをグループで発表し合い、自分の成長を支えてきたものについて話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の努力や支えてくれた人の存在によって自分が成長したことに気付けるように、友達の成長アルバムとの共通点を見付ける機会を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇自分の努力や成長を支えてくれた人々の存在によって成長したことを発言したり記述したりしている。 <発言・学習プリント①> 	
まといめかるす	1	<ul style="list-style-type: none"> ○成長アルバムを見返し、自分が成長したことを生かしながら感謝の手紙を書いたり、相手が喜ぶものを作ったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○感謝の気持ちを伝えられる色紙の内容を考えられるように、「相手が喜んでくれる」「成長が伝わる」という視点を提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇成長を支えてくれた人々への感謝の気持ちを記述している。 <発言・作品②>
	1	<ul style="list-style-type: none"> ○学習発表会で、成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちを伝えて伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○感謝の気持ちを伝えることよさや成長を支えてくれた人々の喜びを実感できるように、感謝の手紙や作品をもらった感想を家族から聞く機会を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇感謝の気持ちを伝えることよさや成長を支えてくれた人々の喜びを記述している。 <学習プリント①>
	1	<ul style="list-style-type: none"> ○これからの成長への願いを込めて未来の自分に向けて手紙を書き成長アルバムに付け加え、手紙を発表し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の成長やこれからの願いに気付けるように、学習発表会後の成長を支えてくれた人々の様子を基に、「発表会をしてよかったこと」「これからしたいこと」を視点として友達と伝え合う機会を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇これからの成長への思いを記述している。 <手紙③>

【備考】

- ・ここでいう「よさ」とは、得意なことやがんばったこと、長所等、個性の中でもプラス面のものと考えて。
- ・現在の自分のよさを自覚できるようにするために、頑張ったことや成長してきたことの中に「よさ」があることを伝える。
- ・家庭とも連携を取り合い、子どもが調べる際に協力を依頼したり成長したこと等の情報をもらったりするようにする。
- ・調べることとまとめることを分けて行うのではなく、まとめながら調べるといように活動を進める。
- ・作った成長アルバムは、学習発表会で保護者に渡し、感想や今後の成長への思いをアルバムに書き加えてもらうようお願いをする。
- ・令和3年度から、アルバム用写真をロイロノートの提出箱に入れてもらうよう学年通信を通して、各家庭に依頼した。また、ロイロノート上でアルバムを作成した。
- ・道徳「大きくなったよ」で、自らの成長過程を「成長の道」として書き出し、自分の誕生から様々な出来事を経て大きくなったことを実感した上で、本単元の学習に入ることで、自分の成長を知りたいと思う気持ちが高まる。そのため、道徳科との合科指導を行う。

☆教科書100～109ページ

小単	Ⅱ-2 ○手作りおもちゃであそぼう 10・11月(12時間)			【内容項目:(6)】
目標	身近な物である輪ゴムで動くおもちゃ(以下、動くおもちゃ)を作り、それを用いて友達と遊ぶことを通して、動くおもちゃの作り方や遊び方を工夫し、動くおもちゃを生み出すおもしろさ、動く不思議さ、友達と遊ぶ楽しさに気づき、友達と楽しく遊ぼうとすることができる。			
評価規準	(①知・技) 動くおもちゃを生み出すおもしろさ、動く伸縮によって物が動く自然現象の不思議さ、友達と遊ぶ楽しさ、友達と楽しく遊ぶことができた自分に気付いている。 (②思・判・表) 輪ゴムを利用した動くおもちゃの作り方を考え、見直したり工夫したりして、動くおもちゃや遊び方の工夫をすなおに表したり、楽しく遊んだりしている。 (③主体的態度) 輪ゴムを利用して動くおもちゃを作り、それを用いて遊ぶことに関心を持ち、友達と楽しく遊ぼうとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
であう	1	○見本の動くおもちゃで遊び、遊んだ感想を伝え合い、学習のめあてをつかむ。 ※学習のめあて 「動くおもちゃを作り、みんなで楽しく遊ぼう」	○動くおもちゃを作って遊びたいという思いや願いをもてるように、走行する、飛ぶ等の動きをする見本の動くおもちゃを用意する。	◇動くおもちゃを作って遊ぶことへの思いや願いを記述している。 <学習プリント③>
かかわる	1	○自らが作る動くおもちゃを決め、必要な材料や目指すおもちゃのイメージを計画カードに書く。	○動く特徴や必要な材料を生かした動くおもちゃのイメージをもてるように、「目指す動き」「動く使い方」の視点を提示し、身近にある材料を例示する。	◇動く特徴や必要な材料を生かした動くおもちゃのイメージを記述している。 <学習プリント②>
	2	○動きを試しながら動くおもちゃを作り、互いの動くおもちゃの動きのよさを伝え合う。	○動く特徴を生かして動くおもちゃが作れるように、動きを試す場所を設ける。	◇動く特徴を生かして動くおもちゃを作っている。 <行動・制作物②>
	2	○自分の動くおもちゃの改善策を見付け、作り変える。	○自分の動くおもちゃの動きの改善策を考えられるように、自分の動くおもちゃの動きの改善策について友達に相談する機会を設ける。	◇自分の動くおもちゃの動きを基に、改善している。 <制作物②>
	2	○完成した動くおもちゃで遊び、これからの活動について話し合う。	○動くおもちゃを生み出すおもしろさと動く伸縮による物を動かす働きの不思議さに気付けるように、動くおもちゃの「よい動き」「よい動きの工夫」の視点を提示する。	◇動くおもちゃを生み出すおもしろさと自然現象の不思議さについて記述している。 <学習プリント①>
	2 + 常時	○同じ種類の動くおもちゃを作った子ども同士のグループで遊び方を考え、試しながら「わくわく動くおもちゃランド」の準備する。	○自分も友達も楽しめる動くおもちゃを用いた遊び方を考えられるように、「みんなが笑顔になれる」「おもちゃの動き」の視点を提示する。	◇1年生と一緒に楽しめる遊び方を友達に伝えている。 <行動・発言②>
	1	○「わくわく動くおもちゃランド」で1年生と一緒に遊ぶ。	○動くおもちゃやそれを用いた遊び方のよさを1年生に伝えられるように、動くおもちゃのよい動きや遊びのルールと注意点を説明する機会を設定する。	◇動くおもちゃのよさを1年生に伝えている。 <行動・発言②>
・まいとかめする	1	○これまでの自分の取組の感想を伝え合い、自分のおもちゃや遊び方のよさを話し合う。	○自分の成長や頑張りに気付けるように、これまでの自分の取組と1年生と楽しく遊べた理由を記述する学習プリントを用意する。	◇1年生と楽しく遊べたのは、自分が動くおもちゃや遊び方を頑張ってきたからであることを記述している。 <学習プリント①>
【備考】 ・遊ぶスペースを借りられるとよい。(5年自動車工場見学, 6年修学旅行等) ・おもちゃの置き場所として第二図工室の隣の小部屋を借りられるとよい。 ・国語「おもちゃのせつめい書を作ろう」と関連させ、本単元で作った動くおもちゃを国語の学習の中で用いる。 ☆教科書60~75ページ				